

究極の幸せ

先日、2年生が道德の時間に人権学習を行いました。主な内容は、知的障がい者を積極的に雇用した、あるチョーク会社の話でした。2人の知的障がい者を受け入れ、様々な工夫をして、誰もが働きやすい職場づくりをした話でした。

2年生は皆、しっかりとビデオを視聴し、「誰もが暮らしやすい社会をつくるために必要なことは何か」を考えていました。

今日の「校長室から」では、この会社の社長が困難に負けずに頑張ろうと勇気づけられた僧侶の言葉を紹介します。

人間には究極の幸せというのが、4つあります。それは、愛されること、ほめられること、人の役に立つこと、人に必要とされることです。愛されること以外の3つは、働くことを通じて得られる幸せなのです。真の幸せは働くこと。だから、会社こそ、彼女たちを幸せにできるのです。

この言葉を聞いた社長さんは、様々な工夫をすることで、知的障がい者の方が安心して働ける生産ラインを作り、会社の売り上げを伸ばしました。そして、社員のうちの約70%が知的障がい者となりました。誰もが安心して働ける会社にしたのです。さらにこの会社は、『**日本一の優しい会社**』をめざしているそうです。

今日の道德は、とても心に響く内容でした。

話は今日の主旨とは少しそれますが、この素敵な会社の取組を2つ紹介します。

☆ 6Sを重視

整理・整頓・清潔・清掃・習慣・Safety（安全）を重視して仕事に取り組んでいる

☆ 『ほめる』6S活動

すごい、さすが、素晴らしい、素敵、最高、サンキュー

「感謝」と「尊敬」で、お互いを褒めあえる良い職場にしよう

この道德の授業を受けて、心が豊かになりました。これも究極の幸せです。

